

食肉速報

平成21年
 <2009年>
 7月16日(木)
 第7954号

発行所 株式会社 食肉通信社

発行人 高田棟彦
 東京支社 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1 ☎103-0001
 ☎(03)3663-2011~4 FAX (03)3663-2015
 大阪支社 大阪市西区江戸堀3-2-12 ☎550-0002
 ☎(06)6443-4947~9
 九州支局 福岡市博多区古門戸町3番12号 ☎812-0029
 ☎(092)271-7816

◇購読料(前納)◇
 1ヵ年 79,800円
 <購読料 76,000円
 消費税 3,800円>
 6ヵ月 40,950円
 <購読料 39,000円
 消費税 1,950円>

THE DAILY MEAT NEWS ホームページ <http://www.shokuniku.co.jp>

目(禁無断転載)次

- ▽【連載】豚肉需給アンケート⑤ 09~10年の豚肉需給動向を予想……………2
- ▽●この人に聞く●北村直人・農場管理獣医師協会会長
 食肉の第3者、獣医師が検証する食肉の安全・安心のシステム……………3
- ▽分社化効果表れ、SQF導入も評価受ける
 —秋山スターゼン社長……………4
- ▽適正表示の自主点検70%、完全実施目指す
 —食肉公取協説明会……………5
- ▽「牛肉輸入見込数量」6月は前月比大幅増も、依然前年割れ水準……………5
- ▽ローソンが牛焼肉弁当発売、北米産チャックアイで付加価値追求……………6
- ▽21年度九州地域肉用牛増頭戦略会議、16~17日に長崎県で開催……………6
- ▽「役員人事」ビセラル(株)、新任取締役に伊藤英一氏が昇格……………7
- ▽【九州地区の輸入牛肉現物相場】先高懸念でC玉は強もちあい……………8
- ▽【日本食肉流通センター週間市況】……………9
- ▽【大阪の牛・豚枝肉相場】15日……………9
- ▽【東京の牛・豚枝肉相場】15日……………10
- ▽【各地の豚枝肉・豚部分肉相場】15日……………11
- ▽【資料】畜産統計・畜種別の地域別飼養戸数・頭数……………12

豚丼の素、角煮、チャーシューなどの
 各種一次加熱商品のことなら、
 いますぐ検索！アメリカのお肉工場

「HASTINGS FOODS」

より選べた 注目加工品！



株式会社

サンワルム

〒555-0025 大阪市西淀川区船里3丁目10-12

☎(06)6474-4186

●この人に聞く●北村直人・農場管理獣医師協会会長
食肉の第3者、獣医師が検証する食肉の安全・安心のシステム



平成19年5月に産声を上げた農場管理獣医師協会(FMVA＝農獣協)の初代会長として、農場と獣医師が連携し、生産段階における安心と安全に責任をもって協会が認証することで、消費者に安全・安心の畜産物を提供しようという強い意欲をみせる。前職は農水副大臣で日本獣医師会顧問でもある。3年目に入る協会の取り組みと対応を聞いた。

Q ■FMVAの獣医師による食肉の第3者認証システムとは。

A ■協会の獣医師が動物医薬品や飼料給与、環境と動物福祉などについて十分に考え、生産者と一緒になって消費者の皆様へ安全・安心の情報と食肉を供給する。協会の第3者認証は、生産における段階のすべてを第3者である獣医師が検証し、一定の条件を満たした牛のみを認証するシステムだ。

Q ■認証システム開始から3年目に入り飼養管理基準策定委員会を設置して、農場管理や店頭監視及び農場相互監視マニュアル等の策定と個体認証基準及び農場管理獣医師育成マニュアルの見直しなどを検討しているが。

A ■認証基準の基は長野県松本の家保の基準や県の認定農家基準などを参考にそれ以上の管理基準を設定した。また草食動物の牛に人間の合理性等で作ってしまったBSEや、人間の道具として蜂を使う事で蜂がいなくなるといふ自然界では考えられないことが起きている。そこで家畜は人間と同じ生命体だが、動物福祉、特にEUの5つのフリーダムに対し、日本でも同様の考えから家畜にとって、元氣一杯で健康に生き、その環境も人間がきちんと管理し、人間がいただきますと食べることが動物の成仏になるといふ考えを農獣協では導入した。しかし、最初から厳し過ぎると農獣協の農家会員が限定されてしまうので、個々の農家に適した判り易い基準を設定してきたが、もう少し消費者や加工・流通業者を含めた第3者にも分かり易いルールにして大きく組織を育てようと思直しに着手した。

Q ■具体的手順などは。

A ■基準策定委員会の小委員会を設置して、22年度総会に現実即した新マニュアルを提案していく考えだ。消費者の方々に肉牛の飼養方法や環境を含めて飼料は安全なのか。安全基準はあるのか。飼料メーカーを含めて与えている飼料の安全性と生産・給与過程における安全性などを見直しする。食肉検査所の獣医師さんも農獣協に入っていたとき、と畜現場の内科的問題についても検証して、飼料から農場管理、月齢、ワクチンネーションなど問題の有りそうなことをすべてをチェックする体制を確立する。(7面に続く)

(3面からの続き)

A ■ 専門用語も分かりやすく見直し、生産から消費者までの流れを信頼関係で構築する。勉強中の畜産関係学生向けも、農獣協に入ってからやすいオーブンな環境も作りたい。さらに畜産を学ぶ将来性のある大学生にも、農獣協の働きと目的などを理解してもらうための情報提供も進めていく。

Q ■ 始まって3年目に入ったが農獣協の普及・拡大について。

A ■ 組織体制検討委員会を中心に、全国の獣医師および産業獣医師へのFMVAの啓発と入会、勧誘を推進する。消費者にはなぜ獣医師なのかを含めてPRしたい。協会の意義や目的を理解していただき、消費者にとっても第一線で働く獣医師が管理する食肉であり、よりおいしく安全で安心な食肉を、値ごろ感で食べていただけるといふメリットを知っていただくよう、普及活動に力をいれたい。

Q ■ 日本獣医師協会との連携は。

A ■ 獣医師会の中で全国展開して欲しいとの要望もあり、前会長の五十嵐さんも理解を示し、実験的に取り組む中で将来は日獣協の事業で取り組んだらとの声も上がっている。日獣協でやれるなら理想だが出来ないなら中央畜産会でも良いし全国47都道府県でやれたら良い。北海道の場合、農業共済と一緒にやっても良いと思う。これまで構築したシステムを使って行政も民間もひとつになり、スローガンを掲げてPRしていきたい。

Q ■ 当面の拡大目標は。

A ■ 全国で70〜100人の獣医師の参加を得て、肉用牛で全国の1割程度の20数万頭を農獣協で扱いたい。国の輸出促進では獣医師による飼養管理による信頼で中国を含めて海外進出の道も開きたい。

「プロフィール」1947年(昭和22年)生まれの62歳。酪農学園大獣医学科卒業後、農業共済組合の獣医師を経て自民党から衆議院議員当選6回。内閣官房副長官、農水副大臣、平成17年の郵政選挙後に政界引退。